

令和7年度 第1回<学校運営協議会> 議事録

R7年6月2日（月）14:45～15:45

場所：城北分校

司会：副校長（吉澤） 記録：教務（松井）

1 開式の言葉（副校長）

2 校長挨拶

校長欠席のためなし

3 委員の委託（校長代理：副校長） ※各委員の方に任命証を授与

<委員>

運営協議会	氏名	ふりがな	役職等
1	鈴木 修 様	すずき おさむ	NPO 法人 くらしえん・しごとえん代表理事
2	大石 芳孝 様	おおいし よしたか	元民間企業 人事担当
3	田中 敏美 様	たなか としみ	元 城北分校副校長
4	下村 哲生 様	しもむら てつお	住吉自治会長
5	神田 春乃 様	かんだ はるの	浜松城北工業高等学校 PTA 副会長
6	杉山 真澄 様	すぎやま ますみ	本校 PTA 会長

<庶務>

	氏名	ふりがな	役職等
	園田 一哉	そのだ かずや	浜松特別支援学校長
1	吉澤 奈々絵	よしざわ ななえ	城北分校副校長
2	五十嵐 正広	いがらし まさひろ	高等部主事
3	松井 智恵	まつい ちえ	教務課長
4	鈴木 将宏	すずき まさひろ	進路指導課長

4 自己紹介

<鈴木 修 様>

ジョブコーチを名乗って20年以上。障害者雇用の場所が混沌としてきており、生徒たちの明るい未来を作っていくのは、我々大人の責任、地域の責任だと思っている。

<田中 敏美 様>

みをつくしの学校サポーター、社会福祉協議会の仕事、北地区まちづくりの理事などをやっている。

<大石 芳孝 様>

今年1月まで民間企業で長い間、障がいのある方の雇用を担当してきた。この運営協議会には昨年度から参加させていただいている。

<下村 哲生 様>

住吉会長3年目。運営協議会も3年目。市内744の自治会の中でも5番目に大きい自治会。広さも人口も多い。会員も2650名の大きな世帯数。閑静な住宅街、バイパスがありバランスのとれた街だと思っている。浜松まつりの初子19名と、活気のある街。

<神田 春乃 様>

電子機械科3年に娘さん。クラスで女子一人。この役は初めて。

<杉山 真澄 様>

何も分からぬ状態で参加している。色々勉強するつもりで来ている。

<部主事 五十嵐>

6年目で一番長い。部主事4年目です。

<進路 鈴木>

分校に来て2年目です。

<教務 松井>

教務2年目です。

<副校長 吉澤>

今年度本校から異動してきました。

5 本会目的の確認（副校長）

学校運営協議会制度が始まって3～4年になる。順次色々な学校で、「コミュニティースクール」と言って地域の方と一緒に学校を作っていくとして行っている。

学校と地域住人、保護者が力を合わせて、学校運営に取り組む制度ということで関係者が当事者の意識をもって、それぞれの役割に応じた、得意を生かして解決策を協議しながら生徒の豊かな成長を支える、地域と共にある学校づくりを進める、法律に基づいた仕組み。その制度を導入した学校のことを「コミュニティースクール」という。

城北についても、「コミュニティースクール」としてやって4年目になる。皆さんの協力を得て、学校の活性化をしている。

昨年度は「防災」の視点で取り組んだ。学校の危険な場所を検討した。改善できるところから順次改善している。金銭の問題もあり、なかなか全部は改善できていないが、今後も学校の安全については、意識しながら努めていきたい。

6 会長・副会長の選出（規則の第14条に基づく）

会長 : 鈴木 修 様

副会長 : 大石 芳孝 様（後日、選出）

学校のことを皆さんで話していこう。学校だけでなく、色々な意見を出していこう。

7 令和7年度学校経営計画「目指す学校像」の説明、意見交換、承認（別紙参照）

副校長より別紙「学校経営計画書」をもとに説明。

生徒の「自己理解を大切にした教育」を展開している。生活面も、自分を知って進路選択をして進んでいくなど、あらゆる面での自己理解をポイントとして教育を進めている。

太文字のところが重点を置いているところです。

ア<授業>

生徒が夢中になれる学校生活づくり

作業学習の充実

イ<安全・安心>

命を守る意識と行動力の向上

通学時間も含めた安全。自身が身を守る、自分で判断して身を守るということも目標としている。

人権を守る意識と行動力の向上

年間指導計画も立てて、学年ごとの取組もしている。

いじめを見逃さない学校づくり。生徒指導でいじめにつながるようなことも見抜いて早期発見。

生徒が自分で相談できる場も今年度から設置している。

ウ<協働>

発信力の向上

ホームページ、Instagramでの広報。あらゆるところで宣伝して皆に見てもらって知ってもらうという取り組みをしている。

エ<チーム>

コミュニケーション力の向上

職員が働きやすい、夢を語れる学校づくり。職員も主体的に、チームとしてやっていく。

働き方改革の推進

<御意見、質問、感想>

田中様：「自分時間を楽しめる人」これについての主な取り組みは？

副校長：「自己理解」の意味も込めて自分時間。「自分を知る」というところに繋がっている。

五十嵐：働く人を育てていく。働くだけでなく、プライベートの時間も大事。学校の中で何ができるかを考えると、授業の中で、音楽、美術、体育など、実際自分が働きだして、どうやって余暇を過ごしていくのか、興味関心を広げていくところかと思う。

田中様：余暇の過ごし方は特支の子たちにとって必要。静大付属で3年間くらい研究テーマとして取り組んでいたことがある。学校の授業の中でどうやって余暇を教育していくのかということが非常に難しい。全国的にも余暇が大事だということで取り組んだ学校がある。古い資料も参考になると思う。

大石様：学校の情報をどうやって発信していくか考えたときに、ホームページも大事だと思う。ホームページを見ると、一部において更新がされていないものがあると思う。

副校長：行事の2個目を載せたところ。順次更新していく。

大石様：新しい年度になってからは変わっている？去年の4月の校長先生の御挨拶になっていた。

副校長：校長先生の挨拶はまだ更新されていない。

大石様：内容が古いものかなと思ってしまう。他の学校が令和7年度になって、新しい校長先生がコメントを入れている。日付変えるだけでもよいと思う。なかなか出向いて来られない人はホームページを見ていると思う。

学校運営協議会の内容もホームページで触れる予定はあるのか？

副校長：報告という形で、皆さんに確認を取ってから載せたいと思っている。

修様：今スマホで確認したら、令和7年度体育大会が載っている。

下村様：入学式とか卒業式とか、回数は多くないが、子どもたちの参観をし、色々な姿を見ながら、生徒の姿と先生方の取り組んでいる姿勢のあたりが、共生社会の一員として職業的に自立させるんだ、していくんだという意気込み、やる気が一人一人から感じられる。教育目標が実態として具現化されているなと感じる。

自治会も4月からホームページを開催。5月の浜松まつりのときは静大の工学部の学生が写真を撮って発信してもらった。回覧板も遅れると年配の女性の方から「遅れてるよ」などと言われる。関心があるのだと感じる。啓発をしていかなければと感じる。

神田様：自分が働いているところにも実習に来たりしている。しっかりやっている子が多い。城北分校の生徒かどうかは分からぬが。

杉山様：この学校を子どもが選んだとき、ホームページとかいろいろなところからどんな学校のかなと探った。何をやっている学校かが見えにくい感じがした。実際、試験をする前に見学、体験しないと受検資格がないという形で、中学2年から始まった。それで、何となくこういうことをやってるんだ、こういう学習をしてるんだということが見えてきて分かつて、子どもを託してもいいなと思って受検した。周りの社会に分かりにくい存在のかなと少し感じている。職場の同僚に、特別支援学校の城北分校に入りましたと伝えると、「城北高校に入ったんだね」という返事が返ってきて、ちょっと違うんだけどなと思って、一から説明しないといけない。社会に浸透していないのかなと感じる。障害者雇用率が増えていけば、社会に障害者が増えてきて、浸透してくるのかなという感じはするが、発信が少ないのかなと感じている。せっかく良いものを持っている子たちなので、残念だな、もったいないなと少し感じている。

親として不安。果たしてここに子どもを託してよいのかと。進学先として、いろいろな選択肢がある。ここだと中卒の資格しか取れない。学歴社会の中で、果たしてここに子どもを託してよいのか、社会に出たときに大丈夫なのかというのは、親としての迷い、選択肢としてかなり子どもの将来に対して不安材料になっている部分がある。

修様：雇用率が上がっているから企業に就職する。決まっているのが雇用率2.5%。逆に言うと97.5%の人たちは、接していないという社会。まだまだ一握りのところ。もっともっと情報発信も含めて、しっかり答えていかないといけない。

田中様：過去にパンフレット、ホームページなどで啓発したがなかなかうまくいかなかった。ぱっと見やすくなるとよい。開いていくと学習内容が分かるような、動画も見れるようなものになるとよいなと思うが。

副校長：昨年度よりホームページの形式も県で統一されたものに整えられた。

修様：サポート校、通信は企業が入ってきてバックアップ。高卒の資格が取れますよというのが一つの売りになっている。特別支援に行くと高卒の資格が取れないというところで、まず、親御さんは迷う。

自由にきれいにホームページを見せることができる。学校は、正しい知識をどうやって伝えていくのか、制約の中でどうやって伝えていくか（やりたくてもできないことが山ほどある）難しい。PTA、保護者独自の思うことをもっと自由に発信できたらよいと思う。

副校長：Instagramは即時性、独自性を出していける。皆が見られるようにとやっているが、年齢制限がかかってしまって、今フォローしてくれている方しか見られない状況になっている。

修様：富士東が全国1位のフォロワーを目指そうと取り組んでいる。

田中様：新潟の特支のホームページが良い。高校の資格がなぜ取れないのかなども載っている。学校生活も詳しく載っている。

副校長：学校説明会などで分けている案内などもあるので、そういうものも掲載できるかなと思う。

修様：富士東のInstagramで、「農作業やりました」など10秒20秒で本当に楽しそうにやっている様子が動画で見られる。生の顔が見えるというのはすごくある。

警察の幹部の方と話をする機会があったときに、犯罪率などの事件が増えているか聞いたところ、圧倒的に数自体は減っているとのこと。ネット社会なので、衝撃的なニュースばかりがポンと入って来るので、すぐそばにあるように感じる。過剰に反応する。我々自身がSNSに踊らされることがある。

令和7年度学校経営計画について、承認された。

8 協議事項 『共生・共育～地域と、地域で～』

副校長：城北工業の敷地内に設置させていただいているというところで、城北工業のことも身近な地域と捉えて、地域のために生かせる力、城北工業、地域の中で求められる力を協議しながら、こんなことができるのではないかなど、地域と繋がりをもって何かやっていけたらと思う。

昨年度、この運営協議会での御意見を生かし、販売会の場所も3か所増やせて、広がることができた。

2年生の作業で、ファミリーマートさん、あいホールさん、洋服の青山さんなどで清掃作業もさせていただいている。地域に出ていって力を生かしてお互いにプラスになれるといなと思うので、アイディアをいただけたらと思う。

下村様：城北工業高校の中の発達支援学級だと最初捉えていた。完全に独立したいわゆる特別支援学校があるということを知るには少し時間がかかった。

住吉はゆりかごから墓場まで全部揃っている。聖隸病院で生まれて、幼小中高大、パルモ（葬祭）、中央警察署もあり、すぐそばに高台消防署もできる。全てが揃っている街というのは浜松市の中でもない。色々な団体、色々な施設と「繋がり」を持つことが大事。ノースカフェに訪れた。子どもの能力、地域の格差は繋がりの格差。今年は「繋がり」を

一つのキーワードにしようと（自治会の）総会でも話した。いざというとき、何かあったときに支え合える、助け合える。地域力に繋がる。さらなる繋がりが大事。ノースカフェなど、協力していきたい。

修様：学校はここにあるが、実際働くとなったら違う地域（ばらばら）になることもある。全てカバーできる訳ではないので、この中でどう関わって学んでいくかが大事。

大石様：ホームページでもう少し掘り下げて紹介をしていくとよい。共生・共育も、写真などを入れて紹介していくとよい。城北祭を見させてもらった。難しい問題があると思うが、分校内で展示していたが、城北工業の方が多かったので、城北工業側の展示に混って展示をするのはどうでしょうか。作業製品の販売について、例えば生徒が就職した事業所の昼休みの時間を使って展示、販売をするとか、実習先の食堂を利用して販売をするとか、やれたらよいのではないか。

修様：企業に場所を貸してくださいというのは、デメリットだけではないですよね？

大石様：デメリットはそんなにないと思う。

修様：むしろ、こんなことに取り組んでいますと企業の中でも理解が深まる。

大石様：食事の時間など、食堂の一角を借りて展示、販売するなどするとお互いに理解が深まるのではないか。

修様：カフェも出張して販売とか。（アビリンピックも全国に行った）

下村様：部長会（52名くらいいる）で、ノースカフェというのがあって、マナーとか接客と勉強して、全国大会も行ってなどと話すと、皆さん興味をもってくれる。そういう集まりの中でも知らせていきたいと思う。

副校長：オークラの方に来ていただいて、校内の検定などもやっているので、そういうのも掲げてカフェとかできるとよい。

修様：東京、大阪、名古屋、福岡など、オフィスビルの中で、カフェ業務を位置づけている。浜松の地域もゼロではないと思う。

田中様：コロナで外に出る機会がかなり減った。縮小された。

ハローワーク主催の催し物のときにお茶出しも以前はしていた。

他県だと特別支援学校がレストランやったりしている。静岡県はなかなかやっていない。

副校長：部長会等のお茶出しとかできるとよい。

下村様：住吉会館（聖隸病院のすぐそば）で部長会、総会などをやっている。

修様：フィルターがかかってなかなか見えにくい部分がある。率直にどうですか？

神田様：分校の生徒さんと、普段そんなに一緒にやったりはないですよね。学年交流なども全然知らなかった。子どもに聞いても分からぬ。自然に関わりが増えればよいなと思う。

副校長：サービス班の活動で校内の整備もやらせてもらっている。その様子も、城北工業高校の校長先生が職員にまず紹介してくれた。

修様：現状は子どもを通しても見えてこないし、何だろうというところですよね。富士東分校は、部活に分校生徒が参加できないかという話があって、学校として位置付けて1～2年して参加するようになったこともあった。大きな行事だけでなく、日常的なレベルでの付き合い、授業へのお互いの参加など色々やり始めているみたい。

杉山様：保護者としてもやもやしていることがある。先日、体育大会に午前中だけ参観した。リレー、分校の子も城北工業の子に混ざって2組出た。陸上、サッカーなど、部活動をやつてきた子が分校に入って、今部活が美術とサッカーだけ、週に2回しか、それも1時間しかない。中学のときにやってきたのに、分校に入ったらできない。先生方の働き方改革も

あって難しいのは分かるが。時間の制約もあったり、城北工業が使っている運動場も使えなかったり、いろいろな制約があってだと思うが、もったいないなと思う。大会に出ていた子もいるが、そういうところが生かせない、伸ばせないとところが親としてもやらやしている。城北工業の子たちと一緒に同じ部活ができたり、競技の参加ができたりというところから、普通の日常でも、お互いがお互いの理解ができるのがまさしく共生・共育なのかなと。城北分校を選んだ一つの理由として、城北工業の子たちと一緒に交流できるというのが大きい。社会に出たら、支援学校だけの一つのくくりの中で生活ということはありえない。生かしきれていないもったいなさ、生かすことによって、交流する中で、周りの人に理解してもらえる、分かってもらえる。親としても知ってもらいたい。規制とか、やれないことの多さで、子どもの生かしきれていない能力、つぶしてしまう能力がある気がして。浜北特支の子の野球のことが新聞記事に載っていた。そういうことがもっとできれば。

修様：「こうなったらいいよね」と声を挙げていくことが大事。制度の壁はたくさんあると思う。今の若い世代が肌感覚で一緒にいるということがすごく大事だと思う。

それに対して、学校が、地域がどんなことができるか考えていくのが運営協議会。

副校長：部活は「安全」というところが大きい。

修様：全ての人たちが誰でもいいよという風にはならない。

副校長：お互いの安全。けがをしたときにはなど、一緒にやるには、なかなか難しさがある。

田中様：実際、城北でも陸上で速い子がいて、教員がついて週1～2回工業の部活に参加させてもらったこともあった。サッカーで、障害者の全日本の子がいる。サッカーチームに参加させてもらったことがあった。難しいのは、教員が付いていないといけない、高体連と特別支援学校の連盟の違いもある。障害者の大会もある。特別支援学校が色々手を引いてしまった。以前は陸上の大会もあった。個人で申請してわかふじとか陸上の大会もある。サッカー(もくせい杯)なども学校が直接はやっていない。やれる機会はあるが、学校が直接はやっていない。わかふじは個人種目は個人で申し込み(所属は学校になっているが)。バスケット、ボウリング、卓球など色々な種目があり、チームを作ってやってはいるが、そこまで知られていない。

副校長：連盟が違うとなかなか難しさがある。高校の部活動も縮小されてきている。

田中様：地域のスポーツクラブなど、中学も移行している。特別支援学校の生徒はなかなか受け入れ先がない。サッカーは浜松学園のところで西部教室というのを月数回行っている。ジュビロがもっているチームもあるあまり認知されていない。

修様：学校の中での小さな生徒同士の交流はもっとあったらと思う。学校教育は学校の生徒の安全が第一。まずそれが法律で定められている。こうやりたい、こうあればいいのにという所がなかなか実現されないという実状もあると思う。

大石様：昨年の4月から一学年3クラスになり、どのような変化があったか？

五十嵐：2、3年生27人になって、人数が増えたことによって生徒の実態幅は広がった。「軽度」ということだったが、幅が広がってきた。教育課程も少しずつ変えてきている。日々見直しをしていかないといけない。就労も、全てが企業ではなく、福祉就労をしてから企業で働くという子も確実に増えてくるだろうなというのが現状としてある。

もともと2クラスの規模だったので、いろいろとひずみが出てきている。場所もなくなつて、今工業から2教室借りている。もっと増やしていくかないと教育活動を継続していくのが難しいなと思う。

(閉会)

4 閉会の言葉（副校長）

- ・第2回：10月20日（月）午後 生徒の様子参観 中間報告、協議